

少子高齢化社会の到来



まつぞの こうすけ
神経内科 松蘭 構佑 先生

本年4月～9月まで赴任となりました松蘭構佑と申します。6ヶ月と大変短い赴任期間ではありますがよろしくお願ひします。

倉敷平成病院は理事長の高尾武男先生、部長の高尾芳樹先生を筆頭に素晴らしい神経内科の先生方が大勢常勤として勤務している病院です。神経内科がこれほど充実した病院は岡山県内でも数指に入るのではないのでしょうか。僕自身は最も経験年数が短く大変頼りないのですが、少しでも地域住民の皆さんのために貢献できましたら幸いと思

っています。

日本は以前より指摘されておりましたが、少子高齢化社会に歯止めがかかっておりません。世界トップの平均寿命を有することは大変素晴らしいことであり、これまでの医療制度の貢献度が数字として表れた結果ですが、少子化は深刻な問題です。僕自身未婚で結婚の予定もない身ではありますが、子どもが少ない現実は社会として将来の展望が明るいとは言えないと思います。労働人口は減少を続け、このままだと日本は2030年にはアメリカと中国のGDPの数分の1に低下し、世界第20位前後の経済国となることが一部で予想されていることは皆さんご存知でしょうか。予想通りならば、20年後には日本は極東の一小国となり、サミットにも参加が出来なくなり、我々は現在のような生活は送れないということです。少子高齢化に加え、日本は世界第一位の借金大国です。これも悲惨な将来を暗示させるかと思ひます。働く人口がどんどん少なくなっていくのに一体誰がこれだけの借金を返せ

るのでしょうか。これまでは「日本は経済大国なのだから何とかかなる」で何とかなつたかもしれませんが、極東の一小国にこれだけの借金があれば世界はどう思うのでしょうか。

僕の見解に基づく悲観的な日本の将来を述べさせていただきましたが、我々医療者も経済とは非常に関係性が深いです。日本が経済大国なので素晴らしい医療を提供できてきましたが、将来の医療に関しては柔軟性を高くして対応する必要があるかもしれません。神経内科が診る領域は認知症、脳梗塞、パーキンソン病など高齢者を対象とすることが多いです。今後高齢化社会の到来により神経内科のニーズはますます増加するとは思いますが、経済的に今後医療がどうなるのか心配な今日この頃です。日本でこれだけ少子化が進んだ理由は何なのでしょう。少なくとも倉敷平成病院では皆が将来に希望を持てる素晴らしい環境としてさらに進化して行ってほしいと思ひます。

松蘭先生は毎週月・木曜の午前の神経内科外来と入院患者さんの治療を担当されています。

Doctor's Eyes